

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



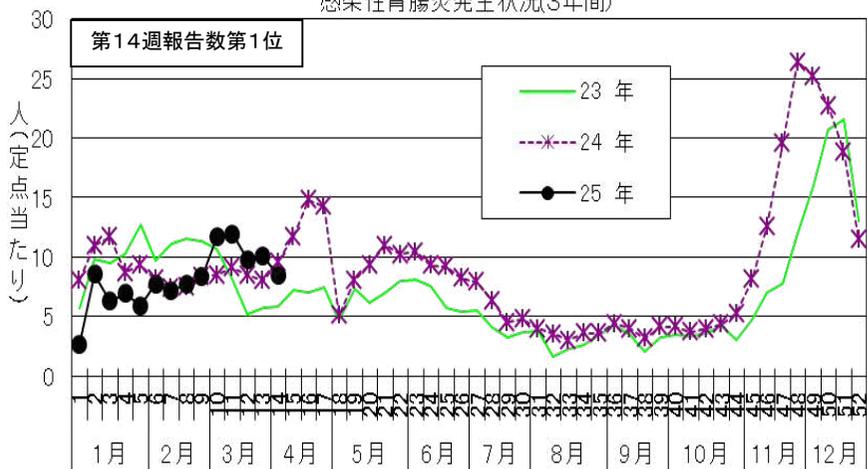
KAWASAKI CITY



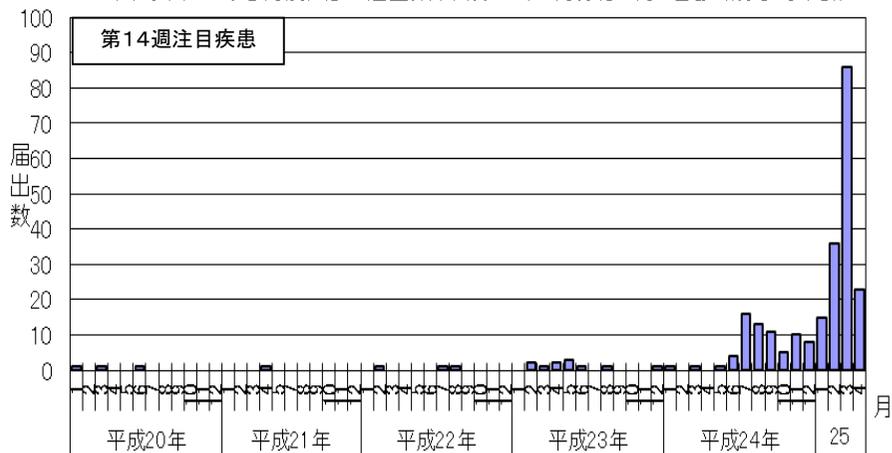
平成25年4月1日(月)～4月7日(日)〔平成25年第14週〕の感染症発生状況

第14週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)インフルエンザでした。感染性胃腸炎は定点当たり8.48人と前週(10.09)より患者報告数は減少し、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。インフルエンザは定点当たり1.06人と前週(1.00)より患者報告数はやや増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。風しんの届出が23件(臨床診断例8件、検査診断例15件)あり、非常に高いレベルで推移しています。一般に、風しんの流行は春先から初夏にかけて多くみられるため、今後も発生動向に注意が必要です。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



川崎市における月別風しん届出数(平成25年4月分は4月7日診断分まで集計)



知らない間にあなたも「風しん感染者」？

風しんは、感染しても症状が現れない人や症状が軽くて気づかない人が30～50%程度います。これらの人もウイルスを排出するため、知らない間に妊婦に感染させ、胎児に「先天性風しん症候群」を引き起こすことがあります。そのため、今後生まれる赤ちゃんや周囲の人を守るため、妊娠を予定する女性だけでなく、周囲の方々についてもワクチン接種をお勧めします。

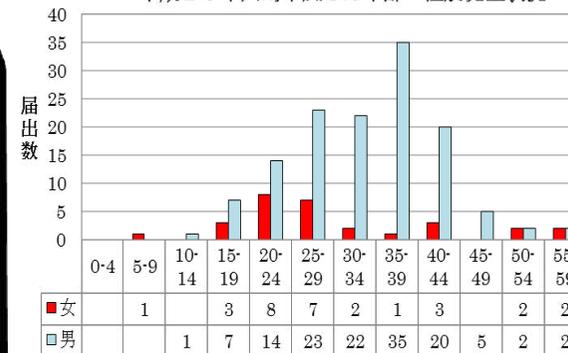


～先天性風しん症候群～

妊娠中にお母さんが風しんに感染すると、赤ちゃんが生まれつき心疾患、難聴、白内障などの障害を持って生まれてくることがあり、この病気を「先天性風しん症候群」と言います。

そのため、生まれてくる命を守るため、妊娠予定の2ヶ月前にワクチンを受け、風しんを予防することが大切です。

平成25年川崎市風しん年齢・性別発生状況



上のグラフのとおり、予防接種制度上ワクチン接種機会の少なかった 20～40代の男性に患者が多くなっています。